

調査(1)の③より 時間が不足している 多忙である テーマの共通理解が不足 一人一人の研修意欲が不足	研修資料の提供・活用	調査(2)より 教育観がバラバラである 研修内容の充実の希望 テーマにそった話しあいの希望 専門知識の不足 文献研究の必要感 資料の提供の強い希望
--	------------	---

以上の調査結果より、「共通テーマ」を「共通理解」のもとで、充実した、効率的な研修を行なうための「資料の活用」は、有効な手だてとなるであろう。

### 5. 改善策の樹立

以上の調査結果から、次の点に留意して、校内研修年間計画の改善をはかることにした。

- (1) 研修項目の具体化をはかる。
- (2) 研修資料の提供、活用と文献の紹介をする。
  - ① 研修資料としては、基本となる内容、及び基本となる内容でありながら、容易に手にはいりにくい文献、資料（他校の研究紀要などを含む）から転記したもの、などとする。
  - ② 紹介文献としては、さらに深く追求する場合、または、広がりのある内容を必要とする場合、別な観点から見たい場合、などに活用できる比較的手にいれやすい文献とする。
- (3) 改善策

校内研修年間計画	
1	目的 職務に必要な知識、技能、教養等を習得し、資質の向上をはかる。
2	方針 (1) 精神薄弱養護学校としての特殊性から、専門的な知識・技能・教養等が必要とされるので、一般教養研修よりは、専門的な研修を重視する。 (2) 本年度の学校努力目標の中から研究テーマを選定する。 テーマ「子どもの実態にあった、統合・合科による授業のふさわしいあり方は、どうあるべきか」 (3) 研修の対象は全職員とし次のような方法で行う。 ① 全職員による全体研修 ② 小学部・中学部別研修 ③ 必要に応じ、領域・教科別研修、校務分掌別研修を行う
3	研修日 水曜日を研修日とする

### 4 研修推進者

- (1) 全体研修の推進は、現職教育係が行う。
- (2) 小学部、中学部別研修の推進者は、小学部の研修は小学部長が行い、中学部の研修は中学部長が行う。

### 5 研修内容 研修内容は次のとおりである

- (1) 全体研修
  - ① 授業研究（年4回）
    - 小学部低学年「日常生活指導」
    - 小学部高学年「生活元単学習」
    - 中 学 部「作業学習」
    - 養 護・訓 練「養護・訓練を中心とした統合学習」
  - ② 全体協議会
    - ア 研究テーマの合同研修「統合・合科による授業のあり方」
    - イ 学部別研修報告協議「統合・合科による授業のあり方」
    - ウ 児童・生徒の実態調査実技研修「知能検査発達検査法」
    - エ その他（実技研修、伝達講習）
- (2) 小学部・中学部別研修
  - ① 研究テーマにそった研究協議
    - ア 統合・合科による授業は、どのような形態か
    - イ 統合・合科の必要性について（精神薄弱児の心理的特性）
    - ウ 統合・合科による授業の歴史について
    - エ 授業研究についての研究協議
    - オ 本校の教育課程についての研究協議

### 3 研修計画

月	研修内容	研修資料	紹介文献
10月	統合・合科の必要性について 精神薄弱児の心理的特性 精神薄弱児の心理的特性	精神薄弱児の心理的特性 ○レヴィンの力学的構造論 ○精神分析の考え方 ○ウェルナーの類型学的な考え方	「特殊教育執務ハンドブック」2（第一法規版） 「精神薄弱児講座」No. 1 No. 5 （日本文化科学社） 「旧，新，養護学校指導要領解説」
	○知的能力の遅滞 ○抽象化一般化の能力の劣弱 ○応用能力の劣弱 ○特殊教育の児童集団の特殊性 ○精薄教育の歴史から		